『うっかりおじさん』どこからきたの？



―北欧 スウェーデンの子どもの本の魅力―

2026.11.7（土）～ 11.9（月）

場所：SŌKO802（東武伊勢崎線　越谷東口から徒歩 5 分）
〒343-0813 越谷市越ヶ谷 1-4-7

11.7(土)13 時～ 20 時
11.8(日)10 時～ 20 時
11.9(月)10 時～ 17 時



東京の多摩地区から越谷に、うっかりおじさんと一緒に、きだいえりこさんと朔北社がおじゃまします！うっかりおじさんの生まれた国のことや、その国の本のことをたっぷりと、知ることのできる 3 日間。みなさんのうっかりエピソードも教えて下さいね！
また会期中、きただいえりこさんにスウェーデンのお話を伺うイベントを下記の通り開催します。ふるってご参加下さい！

翻訳家 きただいえりこさんに聞く
「いろんな見方があっていい！」
～スウェーデンの絵本は社会の縮図～

日時：11 月 7 日（土）15 時～ 16 時 講演会後、17 時までフリータイム
参加費：2500 円
（参加者の方は『うっかりおじさん』（絵本）、新刊『任務 #1 黒バラへの警告』のどちらか 1 冊をお持ち帰りいただけます）

スウェーデンは、性別や国籍によらず、皆が自分らしくいられるよう、多様性を尊重してきた国です。子どもの本の中にも、そうした姿勢がよく表れています。世界的に分断が広がりつつある今、スウェーデンの絵本を通して、物事のさまざまな見方の大切さについて考えてみませんか。絵本作家たちの直々のメッセージもご紹介します。

企画・あかね . ya　協力・朔北社



きただいえりこ（スウェーデン語翻訳家）

埼玉県生まれ。子どものころ越谷（蒲生）に暮らしていたことがある。早稲田大学第一文学部卒業。小学校で司書をしながら、スウェーデンの絵本や児童書を翻訳している。訳書に『ラミッツの旅―ロマの難民少年のものがたり』『わたしも水着をきてみたい』（ともに、さ・え・ら書房）『うっかりおじさん』（朔北社）『ラビットホッピング！ うさぎがぼくのパートナー !?』（理論社）『シッカとマルガレータ　戦争の国からきたきょうだい』『シッゲのおうちはどこ ?』『リトル じぶんのきもち いえるかな』（子どもの未来社）などがある。この 11 月に 4 冊シリーズ 1 作目『任務＃1 黒バラへの警告』が朔北社から出版される。

〈きただいえりこさんのうっかりエピソード〉
スウェーデンに留学したが、トランクのかぎをうっかり日本にわすれてきてしまい、トランクが開かなかったことがある。



黒バラ団シリーズ　任務 #1 黒バラへの警告

舞台は、1943 年のスウェーデン。ヨーロッパは、第二次世界大戦の真っ只中、スウェーデンの隣国ノルウェーもナチスドイツの占領下に置かれていたが、スウェーデンはかろうじて中立を保っていた。ノルウェーとの国境近く、スウェーデンのちいさな村に暮らすマーヤは、戦争の影を感じつつ、平和に暮らしていた。夏休みのある日、マーヤはノルウェーの戦火を逃れてきた少女ヒルデとユダヤ人の少年ベンと出会い、やがて三人は、ナチス信奉者たちが黒バラと呼ぶレジスタンスの女性を狙っていることを知り、黒バラに警告しようと立ち上がる。

＊　　＊　　＊

著者のカミッラ・ラーゲルクヴィストさんは、社会問題を扱ったリアリティある作品を主に発表しており、これまであまり知られていなかった歴史の事実をスリリングに描き出した作品も多く、この作品もそのひとつ。スウェーデンで 2014 年に刊行された、4 冊シリーズの第 1 巻。2015 年には、青少年の読書推進に貢献している作家として、イェーブレボリィ文化賞を受賞している。



カミッラ・ラーゲルクヴィスト / 著
きただいえりこ / 訳
2026 年 11 月刊行